

牛田 清博 議員

ワクチン接種とPCR検査拡充でコロナ感染の抑えこみを!!

保健所の判断でPCR検査を拡大実施する場所がある

デルタ株は、感染力が高く、急速に広がると言われている。変異株に対する市の見解は、特徴などの詳細は把握できないが、これまでと同様、感染症対策の実施と啓発、ワクチン接種の早期完了に努める。

デジタル関連法は、人権擁護の視点を含めた法整備が必要である。現在の法整備は脆弱だが、刈谷市の見解は、利便性の向上を進めるが市民サービスの低下を招かない

蜂須賀 信明 議員

カーボンニュートラル達成のための施策実行を!!

これまで以上に危機感を持ち、市民、事業者と連携していく

市の基本的な考え方は、地球温暖化問題は一自治体にとどまらず、国や県と足並みをそろえ、広域的な対策を同調して進めていくことが必要と考える。このすばらしい地球環



持続可能で快適な環境都市の実現を目指して、様々な取組を展開

他の模範とならなければならぬ市役所の取組は。刈谷市職員環境行動計画を策定し、職員一人一人が自らの行動に責任を持ち、各職場で実践すべき環境配慮行動を日常業務に定着させることを目的とし、全庁的な推進を図っている。

市内事業者の環境負荷低減に関する状況は。省エネ設備導入、食品リサイクルの推進、使用済み製品のリユース化など、環境に配慮した取組を積極的に実施する事業所を「かりやe.c.o.事業所」

減少は進むものと考えている。

国のカーボンニュートラルの方針によって、本市も2030年度の目標を、26%から46%に変更すべきだが、進め方や具体的施策の考えは。地球温暖化問題は国や県と足並みをそろえて対策を進めていくことが肝要である。国や県の動向に注視しながら積極的な情報収集に努め、今後の対応について検討していく。

依佐美工業団地の造成が進んでいるが、水素の活用や再生エネの導入など、最先端でクリーンな実現を目指していきたい。

工業団地の先行開発区域と周辺農地の境界には緑地帯を整備することでCO2の削減の一助になるものと考えている。2050年、ゼロカーボンシティーに向けた市の思いは、国内の地球温暖化対策の動きが活発になり、本市も急激に変化する社会情勢に迅速かつ柔軟に対応していきたい。今後の様々な取組を推し進め、この美しい地球環境を未来に引き継げるよう、カーボンニュートラルの実現を目指していきたい。

上田 昌哉 議員

子供たちが安定して大人になるために平等で丁寧な教育を!!

子供たち一人一人に寄り添ったきめ細やかな支援を行っていく

不登校の原因は多岐にわたるが、中でも登校に対する漠然とした不安を抱く子供や、心にエネルギーがたまらず学校に足が向かない子供が多くなっている。自分でもはつきりとした原因が分からない場合もあるため、教職員は一人一人に寄り添い、子供や保護者の声に耳を傾けながら、子供に応じた支援が大切であると考えている。

山本 シモ子 議員

市民にやさしい公共交通の実現のため巡回バス無料化の継続を!!

利便性向上のため見直しをする際は有料化の検討も必要

4月に行った乗降者アンケートは、何のために行ったか。平成31年4月に実施した路線改正後の実態把握をするた

として38件認定している。認定期間は3年で今年の9月までであるが、更新も可能である。

市民の環境意識高揚のための施策は。グリーンカーテンコンテ

中嶋 祥元 議員

アパデミックな組織をつくり、スポーツ振興の取組を!!

市の特徴を生かして、夢を追い求める子供たちを支援する

「人が輝く安心快適な産業文化都市」を形成するのは人の力であり、ものづくりの技術、創造性豊かな文化、芸術、スポーツなど、それぞれの分野で活躍する人材を育成することが重要と考える。スポーツの分野では、中学生の運動部に所属する割合がこの4年間で7.4%減少しており、運動離れが危惧される。アタココロナの部活動の在り方や方向性はどのようなか。

国は、令和5年度から部活動指導に教員が関わらない「地域部活動」を提案しており、より地域と連携した活動になっていくと考えている。

市がスポーツアカデミーを組織した上で、ホームタウンパートナーとの連携強化、指導

か、今年度からかりやエコフレンドリー事業を実施している。CO2の大幅削減のためには、市民一人一人の意識改革により、無理のない範囲での省エネ生活が求められる。今後も環境啓発事業に積極的に取り組む。

鈴木 絹男 議員

市民を守るため市独自の措置を取りながら公共施設の運営を!!

県や周辺市と連携を取りながら適切な施設運営に努めていく

現在、緊急事態宣言により、施設の営業時間短縮が要請されている。全国的に見て、自治体独自の措置として、開館時間の短縮ではなく、休館を決めるなど、国や県の要請よりも強い措置を取っている事例はあるか。

全ての事例を把握しているわけではないが、感染者数が近隣市と比べて目立って多くなってきたことなどを理由に、

上した場合の支払い可能額の5項目である。可能額が100円、200円、300円、利用しないとなっており、無料の選択肢がないのは、有料化への誘導ではないのか。

利用しないと回答された方及び無回答の方は、無料のままが良いという意思表示をされたものと解釈している。

その他、アンケートの結果はどうなっているのか。

年齢は70代以上の利用者が最も多く31%、目的は買い物

が最も多く27%、頻度は月に数日以下が最も多く27%、コロナ

星野 雅春 議員

市民の生涯スポーツを支える地域体育館の建設を!!

既存施設の利用率向上と環境の整備に努めていきたい

市内のスポーツ施設や学校のスポーツ開放を使用する際、予約システムを利用するが、予約が飽和状態ではないか借りられないというトラブルが起きていることはあるか。

屋外体育施設については週末に、屋内の体育施設については、平日の夜や週末を中心に利用が集中している。手続に関しては、システムを整備し、一定の評価をいただいていると確認しており、トラブルについては、特段聞いていない。

総合型地域スポーツクラブが頑張る場所を整備することが大事だと考える。豊田市は、中学校区に一つずつ体育館を造り、その運営を総合型地域スポーツクラブに任せると聞い

稲垣 雅弘 議員

2040年頃に顕在化する課題への対応を!!

社会情勢を的確に分析し、課題解決を図り、将来を予測する

令和2年6月26日に、地方制度調査会が第32次の答申として、「2040年頃から逆算

に運営していくのか。

本市は以前から人の流れが非常に多く、仮に公共施設の利用停止をした場合、市民の皆様が近隣市の公共施設を使用しに行くという広域的な人の流れをつくってしまうことが予想される。引き続き国や県の要請に

黒川 智明 議員

刈谷スマートIC及び周辺道路整備の効果を引き出す運営を!!

刈谷スマートICを推進する地区協議会の目的は。

IC設置に向け、高速度路区域との連結位置や構造及び整備効果などの検討や調整を行う。供用後も、効果、安全性、利用交通量、利用促進方策等について定期的にフォローアップし、必要に応じて見直す。

整備による想定効果は。工場からの輸送経路分散により渋滞が緩和され、生活道路への流入が減少し、道路環境の向上が見込まれる。また、移動時間短縮により、物流コスト削減や観光振興のほか、災害時の救済物資輸送や救急活動の効率化が期待される。

供用後の課題解決は、市の横断的対策でより効果が生まれると考えるが、市の取組は。

供用開始後の周辺道路における交通量の変化に注視し、新たな課題に対し、必要に応じた改修を行うなどスマートICの利用促進に取り組む。

伊藤 幸弘 議員

カーボンニュートラルに向け、低炭素なまちづくりの推進を!!

様々な取組を推し進め、実現を目指していきたい

本市のCO2排出削減目標は、2030年度末までに2013年度比26%減となっている。現状の削減実績は鈍化傾向にあり、この状況が続けば目標達成



刈谷スマートICの整備により様々な効果が生まれることを期待

（主な答弁者：産業環境部長）

意識しつつ、社会の変化に対応していく必要があると考えている。今後も持続可能で本市の強みや特性を生かした個性豊かな地域社会を形成していくために、常に社会情勢を的確に分析し、課題を解決しつつ将来を予測していくことで、市民の皆様が元気に笑顔で希望を持って暮らすことのできる社会を築いていくことが重要であると考えている。

（主な答弁者：教育部長）

学校現場での濃厚接触者の基準と休校の基準はどのようなか。

児童生徒や教職員が濃厚接触者に該当するかどうかは、保健所が調査を行った上で判断をしている。臨時休業などは、濃厚接触者の有無が特定できない場合や、感染者のそれまでの登校状況などから校内での感染拡大が心配される場合に行う。

クラス担任がPCR検査を受ける場合に何らかの補助をするなど、日々の学校生活が滞ることのないようお願いしたいが、注意していても感染してしまうことがあると思われる。教員が感染した場合、代替教員の確保や、免許を持っているが現在教職に就いていない方の職場

（主な答弁者：都市政策部長）

開通を重要な視点と捉え、各種計画や施策に生かしていく

亀城公園から国道155号を結ぶ市道01-40号線と、国道1号の今川交差点から名古屋岡崎線と連結する市道01-4号線を接続することは、様々な効果を生むと考える。この整備に対する考えは。

IC整備による交通の変化や社会情勢などを踏まえ、道路規格の変更や必要性も含め調査検討をしていく。課題も多いため、段階的な整備計画を立て、整備効果の高い区間から進めていくことも併せて検討していく。

（主な答弁者：産業環境部長）

カーボンニュートラルに向け、低炭素なまちづくりの推進を!!

様々な取組を推し進め、実現を目指していきたい

（主な答弁者：教育部長）

子供たちに呼びかけ、安心して学校生活を送れるよう努める

学校現場での濃厚接触者の基準と休校の基準はどのようなか。

児童生徒や教職員が濃厚接触者に該当するかどうかは、保健所が調査を行った上で判断をしている。臨時休業などは、濃厚接触者の有無が特定できない場合や、感染者のそれまでの登校状況などから校内での感染拡大が心配される場合に行う。

クラス担任がPCR検査を受ける場合に何らかの補助をするなど、日々の学校生活が滞ることのないようお願いしたいが、注意していても感染してしまうことがあると思われる。教員が感染した場合、代替教員の確保や、免許を持っているが現在教職に就いていない方の職場

（主な答弁者：都市政策部長）

開通を重要な視点と捉え、各種計画や施策に生かしていく

亀城公園から国道155号を結ぶ市道01-40号線と、国道1号の今川交差点から名古屋岡崎線と連結する市道01-4号線を接続することは、様々な効果を生むと考える。この整備に対する考えは。

IC整備による交通の変化や社会情勢などを踏まえ、道路規格の変更や必要性も含め調査検討をしていく。課題も多いため、段階的な整備計画を立て、整備効果の高い区間から進めていくことも併せて検討していく。

（主な答弁者：産業環境部長）

カーボンニュートラルに向け、低炭素なまちづくりの推進を!!

様々な取組を推し進め、実現を目指していきたい

（主な答弁者：教育部長）

子供たちに呼びかけ、安心して学校生活を送れるよう努める



誰もが笑顔で暮らすことのできる個性豊かな刈谷市へ